

「ふくしまの今を語る人」講演者リスト

令和8年5月15日現在
福島県消費生活課

No.	講演者氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
1	カゲイ マナミ 景井 愛実	◆ふくしまの桃と、ふくしまの経験から考える「しあわせ」【農業・商品開発・発信】 福島での桃の成長や美味しい食べ方などについてのご紹介と、東日本大震災の風評被害から考える「しあわせ」の考え方についてをお話させていただきます。食育にふれる機会や生き方を考えるきっかけとなる講演となるよう考えております。 Berry's garden代表。農水省農業女子プロジェクトメンバー。2007年福島県の果樹農家に嫁いだのをきっかけに農業に携わる。震災を契機に農業と向き合い、2017年に「Berry's garden」を設立、福島の農産物の商品開発・発信部門を展開。福島の農産物を世界中に届けるため奮闘中。
2	カトウ エミ 加藤 絵美	◆農地を守り新たな文化をつくる、フリースタイル農家の挑戦。【農業・米・野菜・商品開発・発信】 震災を機に福島を、農業をなんとかしないと、と奮起。関わって手を差し伸べてくれた方々への感謝と恩返しをエネルギーに変えて挑戦してきた事、想いを伝える。 フリースタイル農家。株式会社カトウファーム専務取締役。B-eatJAPAN(食のイベント企画)代表。YellowBeerWorks(クラフトビール)オーナー。2009年に就農し4人の子供を育てながら、農業、加工、醸造に携わる。農水省の委員などを経て講演や海外でのイベントも多数。
3	カワセ ヒロシ 川瀬 洋	◆「食えば分かるさ」福島(ふくしま)の魚！！【水産業・加工販売】 被災した相双地域の漁協復興までの9年間の思いと漁協スタートからの取組み、そして未来につながる福島の水産について伝える。 二本松市在住。マルカワ水産役員。飲食店業、水産物卸業、水産物加工販売業、市場仲買人。相馬双葉漁業協同組合員。
4	キツナイ ヨシトモ 橘内 義知	◆ふくしまが好きだから。～果樹園の現場から～【農業・果樹園】 果物をおいしいと食べてくれる人たちのために、誇りと自信を持って作り続けている。なぜ福島が好きなのかと震災後の取り組み、そして絵本づくりについての想いを語ります。 果樹園きつない代表 福島市出身。大学、社会人時代(中央市場セリ人)を横浜で過ごす。2010年結婚と同時に福島へ戻り就農。震災後より地元の先輩、仲間と共にふくしま土壌クラブを設立、福島県産果実の復活を目指す(現ふくしま土壌ネットワーク副代表)。
5	サイトウ ノボル 齊藤 登	◆ふくしまの農業の再生から全国に【農業・米・きゅうり・野菜・販売ルート開拓】 震災により福島県農業に何が起き、どう立ち向かってきたか。そして、今、目指すものは？福島第一原発から50キロ。米と野菜の専業農家が、現場から生の声を届ける。 二本松市出身。県を中途退職し農業へ。NPO法人がんばろう福島、農業者等の会代表。震災直後より、首都圏等で風評被害を乗り越える直販活動を展開。
6	サイトウ ユウコ 齋藤 由美子	◆“もったいない”こそ価値あるブランド～完熟桃で商品開発～【農業・商品開発・発信】 おいしいのに出荷できない完熟桃に着目。桃の魅力を通年楽しめる商品を開発。フードロス無くし、農家と共に福島のブランド力を発信。 福島市在住。(株)ももがある代表。ゴスペルディレクター。桃をメインとした農産加工品を販売しながら、全国・世界へ赴き福島の食文化を伝える。
7	サトウ ヒロミ 佐藤 宏美	◆青空市場から耕作放棄田の再生へ【農業】 震災前までは、京都にある日本料理屋「京都吉兆」に10年勤務。そこで福島の食材の美味しさを再認識。震災後福島に戻り、福島の食と農の素晴らしさをPRする活動に取り組む。 福島市在住。まちなか野菜直売所の運営、2018年より参加型無農薬無肥料米生産に取り組む。2025年から規模拡大中。(お百しょう屋店主)

No.	講演者氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
8	スズキ マサミ 鈴木 正美 	◆福島県農業の現場から見える課題とこれから【農業・米・販売ルート開拓】 原発事故前後農業を取り巻く環境や人口減少や高齢化、原発事故後の風評被害に地域がどう取り組むのか。「現場」の人々の前向きな活動と声を伝える。 矢祭町出身。農業法人でんぱた取締役。「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」東北農政局長賞受賞。産学官連携の精密農業(土壌センサーポストの設置等)実践や農産物の県外直販、高齢者見守り活動等を展開。
9	セキ モトヒロ 関 元弘 	◆いつまでも続いていける人と環境に優しい農と暮らしを目指して【農業・米・野菜】 原子力災害により一気に加速した農業・農村の衰退という危機的状況を突破するため、「楽しく」かつ「真面目」に様々な取り組みをしている元役人夫婦の話。 東京都赤羽出身。夫婦共々元農林水産省役人。有機農業、酒類製造業、両者を活用した都市農村交流(アルコールツーリズム)に取り組む。
10	タキザワ メイ 瀧澤 芽衣 	◆女性と子どものキラキラ笑顔がTSUNAGU ～サツマイモの六次化産業で復興から“発展”へ～【農業・6次化】 東日本大震災後の農業再生・復興のシンボルとして育ててきているサツマイモ農業と町での取り組み、グループで行っている六次産業についてお話しします。数字では表現できない“安心感”をどう発信するか、農業だからできること、暮らして感じる事など移住者としての体感も含めて皆さんに近い目線で話します。 神奈川県出身。檜葉町在住。2015年に大阪に本社を構える食品メーカー「白ハト食品工業(株)」が中核をなす白ハトグループに就職し、2017年～檜葉町のサツマイモ農業に携わる。現在は2人の子供を育てながら檜葉町を中心にサツマイモの産地拡大、視察や体験・イベントの活動を通して“福島は今”を伝える。
11	タキタ クニオ 滝田 国男 	◆農業体験実践者が語るふくしまの今【農業・外食とのコラボ】 「食」の大切さを体験から発信しようと活動。首都圏の多くの人々との出会いが生まれた。震災後、立ち止まった交流も徐々に復活。体験による出会いと感動から農業の未来像を語る。 白河市(旧表郷村)在住。合併前の表郷村最後の村長。農業歴50年。JGAP指導員。震災後、大手外食産業と手を組み農業法人設立。安心・安全な食材で農業の未来に挑む。
12	タダノ タダノリ 但野 忠義 	◆酪農、乳業での安全、安心を求めて【酪農】 政府より生乳出荷停止を受けて、再出荷から不検出(ND)を守り続けてる酪農、乳業の取り組みを酪農家、そして元組合長の視点から伝える。 南相馬市出身。酪農家。元福島県畜産振興協会会長、元県酪農業協同組合組合長。避難中の酪農家支援。乳牛580頭が飼育可能な「復興牧場」整備に着手。
13	テラヤマ サチコ 寺山 佐智子 	◆すべては予祝からはじまる【農業・果樹・民泊・6次化】 こうありたい、こうしたいを現実にしていく。困難があっても大丈夫。 (株)阿部農縁 代表 須賀川市の農家生まれ。1989年から2007年まで公立岩瀬病院にて看護師・ケアマネージャーとして勤務。その後就農。震災後6次化を積極的に進め2012年12月法人化。食と農と人で元気を届ける活動を進めている。
14	ニイツマ リョウヘイ 新妻 良平 	◆原発30キロ圏内の米づくり農業の現場から【農業・米・有機栽培】 専業農家になった経緯や取り組み、原発事故後の変容を紹介しながら新たな出会いや農業を続ける「想い」を伝える。 広野町出身。専業農家、県指導農業士。(株)新妻有機農園 代表取締役。広野町農産物加工施設代表、同直販所組合長。避難町民にとっての買い物・交流の場を運営。
15	ハセガワ ジュンイチ 長谷川 純一 	◆人と種を繋ぐ会津伝統野菜【農業】 先人たちが守ってきた歴史ある会津伝統野菜を通して、人と種を繋ぎ、伝える活動を紹介する。ふくしまの食文化を重んじる専業農家の話。 会津若松市出身。専業農家。会津農書を語り継ぐ会の会長。伝統野菜を通じて復興を世界へ発信。会津小菊かぼちゃの種まき・苗移植をスペインで実施。

No.	講演者氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
16	ハッタ ノブユキ 八多 宣幸 	◆水産業の復興に向けた取り組みについて【漁業】 津波被害からの復旧。魚介類への放射能影響と試験操業の展開。今後の本格的な再開に向けた取り組みと展望を伝える。 福島市出身。(前職:福島県漁業協同組合連合会災害復興プロジェクトチームリーダー)産地市場での検査体制の整備と安全性の発信。
17	フジタ コウシ 藤田 浩志 	◆魅力たっぷり！福島の農に生きる【農業・米・野菜】 「ふくしま」で生きる農家として、震災後何を考え何を実行したか。数多くの方との出会い・対談から何を見出し、何を学んだかを伝える。 郡山市出身。農家8代目後継者。日本野菜ソムリエ協会認定野菜ソムリエプロ。生活者と農業者の架け橋を目指し、市内農家有志と共に多彩な活動を展開。
18	ホシ イワオ 星 巖 	◆里山づくりに励む【農業・民泊】 農家民宿の経営、里山づくりに携わるようになった経緯や今の思いを、原発事故後の暮らしの変容、仲間達との取り組みを織り交ぜながら紹介する。 南相馬市在住。東日本大震災時には被災地の市役所職員として避難所を運営。南相馬市役所職員を早期退職し、農家民宿を経営。現在は、民宿周辺の里山づくりに励む。
19	ボンド アキ ボンド 亜貴 	◆世界から見られるFUKUSHIMAから、FUKUSHIMAから世界へ発信する農業へ【農業・6次化農業】 ヨーロッパで過ごした経験を基に、オーガニックで植物や動物を育てることの意義とその美味しさを実感。FUKUSHIMAだからこそ、持続可能な世界を作る可能性があると感じる。 会津若松市在住。Bond&Co.代表。13年間ポーランドやイギリスで過ごす。震災を機に帰国。現在父が始めたアイガモ農法を引き継ぎ有機米を栽培、そのお米でお酒を委託製造して販売している。日大工学部やその他のコラボレーションで活動の環を広げている。
20	ミウラ ヒロシ 三浦 広志 	◆原発事故からの浜通り地方の地域復興と農業の再生【農業の再生】 震災・原発事故後に取り組んできた農地の復旧や農業の再生、米の全袋検査を始めとした放射能測定事業、太陽光発電の拡大やそれを活用した避難地域の再生などを紹介する。 株式会社浜通り農産物供給センター代表取締役 合同会社井田川コモンズ代表社員
21	モミヤマトモミ 縦山 智美 	◆家族と共に「幸せな農業」を大好きな福島で～震災後、夢をカタチにしてきたプロセス～【農業・果樹園・直販店経営】 菅野果樹園の長女として20代で就農。福島を代表する果物の美味しさと、震災後の取り組みや4人の子育てをしながら、家族と共に夢をカタチにしていく農業の楽しさを伝える。 縦山果樹園 福島市大笹生の農家生まれ。農家へ嫁ぎ、夫婦で果樹園を営夫と共に20年来の夢を叶え『人が幸せに集う』直売所「よつ葉のクローバーFARMERSGARDEN」をOpenし経営。
22	ヤカズ ミサコ 矢数 美里子 	◆小名浜伝統製法の秘伝のたれ「味丸黒干®」の継承の想いと魚食文化を広める一助になりたい思い【漁業・加工品・販売ルート開拓】 小名浜発祥のさんまみりん干しのはじまり。震災後、地元の名産品だけではなく全国に広める活動する中で、子供達のみならず、家庭の食卓の魚離れを痛感する。秘伝のたれ「味丸黒干®」に漬け込んだグルテンフリーのみりん干し「極旨黒干し」が、魚を食べるきっかけとなり、魚食文化を広める一助となるための商品づくり。 いわき市出身。合資会社カネギ商店元代表社員。70年以上継ぎ足し続ける秘伝のたれ「味丸黒干®」に漬け込んだ「極旨黒干し」を製造販売。震災後、生産者自ら営業活動を通じて、魚離れを痛感し、魚食文化を広めることの大切さを知る。
23	ヤナイ タカユキ 柳内 孝之 	◆大震災での経験と福島県の漁業の現状【漁業】 東日本大震災を経験し、当時の地震・津波・原発事故の状況や想定外のことへの対応と教訓を伝える。また、福島県の漁業について、災害時から現状迄を説明する。 いわき市出身。小名浜機船底曳網漁業協同組合 理事。2010年より福島県漁業協同組合連合会理事を兼務し、震災後、福島県の漁業の復興に尽力。

No.	講演者氏名	講演テーマ・内容・プロフィール
24	ヤマギワ ヒロミ 山際 博美 	◆食はこころを豊かにふるさとの食は心の宝物【郷土・料理人】 食についてとふるさとの食文化。 郡山市出身。(株)山際食彩工房代表。ヴィライナワシロ調理顧問。 「あいづ食の陣」実行委員長。「地産地消の仕事人」。地域産業6次化総合アドバイザー。
25	コシナリ ケニイチ 吉成 邦市 	◆「天栄米」日本一の米作りを目指して【農業・米】 震災後に受注契約が全解除、いち早く対策に取り組んだ。国際コンクールで6年連続の「金賞」を受賞。回復の裏にある「日本一美味しい米作り」への諦めない努力と熱い想いとは。 天栄村出身。「放射能ゼロ」を目標に、農家を励ましコメ作りに取り組む同氏の姿を追ったドキュメンタリー「天に栄える村」が各地で上映。
26	ワタナベ 渡邊 とみ子 	◆諦めない心で目標に向かう～田舎のかーちゃんの挑戦～【農業・6次化】 飯舘村での活動を通して原発災害でも諦めない心で「かーちゃんのカプロジェクト」や農業に取り組む姿を紹介する。 福島市出身。「いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会」会長。元NPO法人かーちゃんのカ・プロジェクトふくしま理事。2024年6月、亡夫との夢、農家民宿「古今呂の宿」オープン。